

厳選良問 ～ 意外に惑わすターミナル期の問題 ～

分野

相談援助分野

出典

ケアマネ試験(第23回-問題24)

問題

問題 特別養護老人ホーム入所中のAさん(98歳、女性)は、食事摂取量が激減し、全身衰弱が進行している。発語も困難で、意思疎通も難しい。嘱託医の判断では、Aさんはターミナル期の状態であるとのことであった。Aさん及びその家族の入所時の意思は、「最期まで施設で暮らしたい」とのことであった。この場合の対応として、より適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 看護職員が作成した看取り介護計画があるため、施設サービス計画は作成しない。
- 2 Aさんと家族の意向は明らかなので、改めて面接をせずに、介護支援専門員が単独でターミナル期の施設サービス計画を作成する。
- 3 看取りに対する家族の意思を確認するため、介護支援専門員がAさんの家族、嘱託医、生活相談員等との面談の日程調整を行う。
- 4 Aさんの意思を尊重し、最期まで介護職員が単独で看取りの介護を行った場合は、看取り介護加算を算定できる。
- 5 終末期の身体症状の変化や介護の状況等を記録し、医師、看護職員、介護職員、介護支援専門員等による情報の共有に努める。

ポイント&解答

資格別試験対策

社会福祉士	精神保健福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	保育士
★★	★★★	★★★	★★★	★★

注) ★★★…必ず学習!! ★★…できれば学習! ★…余裕があれば確認 ×…学習しなくてOK

試験対策ポイント解説

今回は、ケアマネ試験お馴染みの短文事例問題をチョイスしました。

試験では、しばしばターミナル期の利用者を対象とした事例が出題されています。

基本的には、利用者とその家族が同意(納得)している選択肢が「○」になることが多いです。しかし、この問題では、選択肢4に「Aさんの意思を尊重し」というやっかいな文言が含まれているので、スピードも求められる本試験では受験生を悩ませたことでしょう。この問題では、「Aさん(98歳、女性)は、食事摂取量が激減し、全身衰弱が進行している。」という点に着目して、利用者の心身状況に変化がみられたと判断し、改めて計画の変更、意志の確認といった対応を図る必要があると考えることが大切です。ターミナル期は、看取りの準備も進めることから、様々な領域の専門職がチームアプローチで対応することが求められています。これらの点を理解していれば、正答をマークできるはずです。

解答

3, 5

